

願成寺報

平成二十四年二月十三日

〒四四〇・〇八二二 豊橋市東新町二十八番地

☎ 〇五三二・五二・九六〇一

報恩講のご案内

寒い冬の中で、梅の花芽が凍えながらも春の訪れを待っています。待つ時間は楽しいのか、苦しいのか？梅は答えてくれません。逆に、あなたの準備は大丈夫？と心配されました。左記により報恩講を勤修いたします。今年には聖人の七五〇年忌です。万障お繰り合わせてお誘い合わせてお参り下さい



「報恩講への誘い」

風になびく草原を見ると、風そのものは見えませんが、その姿がハッキリと分かります。念仏する人に遇うことが大事だと思えます。その人の年齢・姿・苦勞を重ねた手の表情などが、多くのことを伝えます。その姿が美しいと気が付いた人は、きつと同じようにお念仏するでしょう。あなたのお念仏に済われる人がきつとあります。だとしたら、あなたの人生も済われるのではないですか。報恩講に御参集下さい。昨年秋の彼岸・永代経では、草取り会に、二十五名の方が集まって下さいました。大変有難く一緒に汗をかきました。お寺とはそんな所かな… と思えます。

十八日午前には、子供たちの生け花を展示します。本堂では、子供向けの法話が聴かれます（一席）。境内では、餅つき会をします（十一時半〜午後一時）。新しい試みですが、賑やかに過ごしたく思っています。

そこに参れば、お念仏の姿に出会える。そんな報恩講を目指しています。願成寺の法会に御参集下さい。

二月 十八日（土）

午前 十時

法要・法話

午前 十二時

お斎（粗飯準備いたします）

午後 一時半

法要・法話

十九日（日）

午前 十時

法要・法話

午前 十二時

お斎（粗飯準備いたします）

午後 一時半

法要・法話

法話 岡崎市 浄泉寺

戸田 信行 師



● 正信偈ノート③・帰敬

書き直しを恐れず、今、思い浮かぶところを書き留める

帰命無量寿如来 南無不可思議光

無量寿如来に帰命し 不可思議光に南無したてまつる

〔浄土真宗本願寺派・注釈版聖典より〕

正信偈の構造

正信偈は、親鸞聖人が南無阿弥陀仏のお名号の中に領いた内容を記した偈文で、その構造は次のようになっています。

帰敬

信仰の表明

依経段

大無量寿経に依る

依釈段

七高僧に依る

二句

十八句

二十句

四句

四句

十二句

十二句

十二句

八句

八句

八句

八句

四句

主題の提示

阿弥陀仏の二徳によって、南無阿弥陀仏のお名号を表現しておられます。無量寿如来と不可思議光如来は、阿弥陀如来の別名です。お名号の徳を二つに分けて讃嘆し、偈文全体の主題を提示しています。

弥陀章	弥陀のこころ	十八句
釋迦章	釈尊の教え	二十句
結誠	依経段の結び	四句
序讚	念仏の歴史を讃える	四句
龍樹章	インドの僧	十二句
天親章	インドの僧	十二句
曇鸞章	中国の僧	十二句
道綽章	中国の僧	八句
善導章	中国の僧	八句
源信章	日本の僧	八句
源空章	日本の僧（法然上人）	八句
結勸	依釈段の結び	四句

いつでも・どこでも・誰でも

無量寿とは、寿命に限りがないということ、時間的な働きの場を表現しています。時間は沢山の出会いを与えることで、命を育みます。阿弥陀仏の慈悲の徳をも表現しています。

不可思議光とは、光の強さに限りがないということ、空間的な働きの場を表現しています。光は無知の闇から、その実態を照らし出します。阿弥陀仏の智慧の徳をも表現しています。

阿弥陀仏の慈悲と智慧の功德は、どの人の上にも働いています。特に私達が「納得できません」と泣いている時、その働きの実感します。大悲の悲しみの中に私達の悲しみを引き取り、「あなたの小さな理屈にこだわることは、それ程大きなことですか？」と。安心の中で如来からの呼び声を、そんな風に聞きます。

今・ここ・私に…届いていた

そのままの今が、済みの現場であったと領かれます。

高田本山からのお知らせ

土曜日の朝CBCラジオ「高田本山の時間」

毎週土曜日朝6時50分からのオンエアです。

開山聖人 750 回遠忌報恩大法会を機縁として広く一般の人々に高田派のみ教えを伝えるためCBCラジオを使ったラジオ法話「高田本山の時間」をオンエアしております。

放送は毎週土曜日の朝6時50分から7時までです。

6:50	開始
	CBCレポーター松岡亜矢子さんによる講師紹介
	本編（御法話）
	本山からのお知らせ
6:59	終了

第18回 2月4日	藤田 正知師
第19回 2月11日	廣田 隆学師
第20回 2月18日	藤井 徳雄師
第21回 2月25日	長谷部行雄師
第22回 3月3日	隆 妙艶 師
第23回 3月10日	戸田 恵信師
第24回 3月17日	花山 光瑞師
第25回 3月24日	高林 亮英師
第26回 3月31日	松山 智光師

※ご講師は変更となる場合がありますので予めご了承下さい。

「願成寺・本山参拝バスツアーご案内」

本年四月六日（金）から十六日（月）まで、三重県津市の高田本山にて開山聖人七五〇回遠忌報恩大法会が勤修されます。五〇年に一度の大法会です。

皆様と共に参りたく思い、バスでの団体参拝を計画しました。楽しい旅行にして参ります。是非ご参加下さい。

■日時 平成二十四年四月八日（日）～九日（月）

■日程 八日 八時〇〇分 寺・豊橋駅集合

十時〇〇分 高田本山の宝物と文化財展（※1）

十二時〇〇分 本本着・青少年会館にて昼食

一三時三十分 御影堂・勤行と説教

十五時〇〇分 本山出発

十八時〇〇分 おごと温泉・びわこ緑水亭

懇親会ほか

九日 八時十五分 ホテル発

九時四五分 彦根城・桜の名所と昼食

十三時〇〇分 長浜市・大通寺参拝

黒壁ガラス館他・散策・買物 十八時

十八時〇〇分 寺・豊橋駅到着予定

■会費 二万円

■募集人数 四〇名

■申し込み 願成寺までご連絡下さい（人数に達し次第メ切ります）

（※1）湯の山温泉駅・パラミタミュージアムにて



「安全と安心と安心（アンジン）」

『安全だと言ってくれ、安心するから』というタイトルの、明治大学・小笠原泰教授の授業をテレビで見ました。

教授は安全と安心について次のように区別します。

安全 リスクを対象として全体をまとめようとする

客観的にリスクと恩恵を比べて判断を下す

リスクを取ることを受け入れる

安心 リスクを対象化せず、全体をまとめようとしな

主観的にリスクがないと思える状態を求める

リスクを取らず回避しようとする

安全性を求めると、安心感が失われるという構造になっている。

だから、安心を求める社会では、安全が疎かになってしまふ。

安心は、日本人に特有の概念で外国語に翻訳するのが難しいそうです。

中国語にも訳語がないと言っていました。

由来を調べると、**安心立命**（儒教において天命を知り、心を平安に保つことまたは、その身を天命に任せいつも落ち着いていること）

が語源だとなりました。

あえてリスクとの関係で考えれば、それが単なるリスクではなく、

リスクそのものを、生きる課題と受け止める覚悟を**安心**と言ったの

でしょう。自らの心の内に立てるもので、**安楽な環境**を求める言

葉ではなかったようです。

仏教では、**安心**をアンジンと濁って読みます。真宗では「信心」

とほぼ同義だと思えます。「我に任せよ」の弥陀の呼び声が聞こえ

た時、心の底に賜るもので、それがなければ現実を直視すること

が出来ません。戦場のような娑婆世界を安全運転で過ごすには、

安心を賜ることが必要なのだと思えます。

行事予定 く平成二十四年三月以降く

二月	十八日	(土)	報恩講
	十九日	(日)	真宗寺院で一番大切な法会です 法話 戸田 信行 師
三月	二十日	(火・祝)	春季彼岸・永代経法会 恒例の彼岸の法会です 法話 当山住職 (仮)
四月	八日	(日)	高田本山・
	九日	(月)	開山聖人七五〇回遠忌大法会 一泊二日・バス旅行にての参拝です
五月	一日	(火)	月例法話会・茶話会
六月	一日	(金)	月例法話会・茶話会
七月	一日	(日)	月例法話会・茶話会
八月	一日	(水)	月例法話会・茶話会
九月	二十三日	(日・祝)	春季彼岸・永代経法会 恒例の彼岸の法会です 法話 当山住職 (仮)
十月	一日	(日)	月例法話会・茶話会
十一月	三日	(木・祝)	高田本山団体参拝 本山の納骨堂法会に参拝します 市内・近郊の高田派寺院と共に バスを借りての日帰り旅行です
十二月	一日	(日)	月例法話会・茶話会

月例法話会・茶話会 午後一時く本堂にて (詳細次号)

その後記

- 昨年は、チベット仏教の国・ブータンから国王夫妻が来日し、話題を集めました。九州ほどの国土に約七〇万人が暮らしているそうです。二〇〇五年の調査によると、九〇%以上の国民が、幸福を感じているらしい。「さすが仏教国」と言いたいが、本当かと疑ってしまいます。少なくとも私は、禁煙国ブータンでは、幸せどころか一日も過ごすことができないでしょう。
- 日本にも国民総中流という時代がありました。皆、そこそこの実績と生活と夢を持っていました。皆がそこそこの幸せと答えた。明るい時代が確かにあったのです。
- 価値観や生活スタイルが多様になった現代、格差社会の今、映画『三丁目の夕日』がヒットしています。「そこそこ幸せ」の方が、今より幸せだったと感じているようです。
- 県別幸福度調査(法政大学大学院)の結果、上位三県を福井・富山・石川の北陸三県が占め、最下位は大阪だったそうです。愛知県は二十一位で、大都市を抱える県としては良い成績となっています。犯罪認知件数・失業率・生活保護率なども参考に調査したようですが、幸福の条件を考えると難しいですね。
- 『幸福のパラドックス』という理論があります。「自身の幸福を追求する程、不幸(慢性の欲求不満)になってしまふ」というものです。今を幸福と思う事を、怠惰の表明だと考える現代人は、必然的に幸福から遠くなってしまうようです。
- 「自分はどうかになりたいのか」「何を望んでいるのか」ではなく、「自分は(人生から)何を求められているのだろうか」「自分は(人生から)何を学べといわれているのだろうか」という問いを持ち、一生懸命に取り組む生活の中に、真の幸福は実現する。
《フランクル心理学より》
- この課題が明確であれば、人はいつでもどこでもだれでも幸せを感じ得る筈ですが、(人生から)が難しいですね。